



コロナ禍と戦う生徒諸君に 贈る「エール」

学校長 横山 豊

新型コロナウイルスの
もたらす災禍が続いてい
ます。皆さんも様々な苦痛を感じていることでしょう。今回は、そのような皆さんに声援を送る文章を書くことにしました。ただ正直なところ、私自身もほんの少し前までは、コロナウイルスにまつわる様々な問題に振り回され、精神的に余裕のある状況ではありませんでした。3月の卒業式、4月の入学式は様々な制約を受けつつも何とか実施はできたものの、毎日1度は県庁から送られてくる膨大な量の感染拡大防止対策文書を教頭先生と何時間もかけて読み、場合によっては時間刻みで判断を迫られ、対応に当たらねばならない日々が続いたからです。

それでも、生徒諸君や保護者の皆さま、そして先生方の協力のおかげで、公立中学や県立高校にはできない1～6、7限のオンライン双方向遠隔授業を実現することができました。その後も出席番号の奇数・偶数による分散登校など、やはり経験したことのないような期間を経て、6月中旬から充分とは言えないまでも、対面型の授業に戻りました。しかし、夏季休業期間を短縮する判断をしたり、県内の私立学校初となるPCR検査を経験したりするなど様々なことがあり、心身共に疲れ果てた状態で夏季休業期間を迎えました。

さて、その短い期間の始まった頃、私はもう何もする気力が残っておらず、この期間は、家でただじっとしていようと考えていました。すると、そのような私の様子を見た妻が「今年のNHKの朝ドラの『エール』がとてもおもしろいよ。録画してあるから、元気が出るので見てみたら」と言ってくれました。

正直なところそれほど乗り気ではなかったのですが、他にすることもなかったの、見てみることにしました。このドラマは、福島県出身の古関裕而(※)をモデルとした主人公古山裕一が、昭和の激動の時代に次々に降りかかる様々な苦難を、家族や友人の支えで何とか乗り越え生き抜いていく物語でした。脚本家は、東日本大震災から10年目の節目に「福島を応援したい」との思いを込めて、「エール」という題をつけたのだそうです。見始めてみると毎回とてもおもしろく、楽しさと温かさを見る人に届けてくれる素晴らしい作品でした。

先日、そのドラマの中で、とても印象に残るシーンがありました。ドラマには、古山裕一・音夫妻やその友人たちが日常的に集まる、「バンブー」という名前の喫茶店がよく出てきます。この喫茶「バンブー」は、第2次世界大戦下において英語は使うなという国家方針で、バンブーは英語でbamboo、

つまり和訳すると「竹」であることから喫茶「竹」という名前に変えさせられます。しかし、戦争は終わり、再びこの喫茶「竹」は「バンブー」に戻ります。そのような喫茶「バンブー」でのある朝の一場面でした。

主人公の友人である村野鉄男という人物が、いつもの席でコーヒーを飲みながら、第2次世界大戦前後に次々と仕事を変えた自分の生き方を回顧しながら、喫茶店の主人である梶取保・恵夫妻に次のように話します。「…おでん屋やろ、新聞屋やろ、作家やろ、その時に合わせて生きてきて、節操ないっていうか、恥ずかしいです」と、店主の保さんが「いいや、たかましい。しなやかで、強風でも揺れて決して倒れない」と言葉を返し、保・恵夫妻は「まさに、バンブー!!」と言って、ポーズを取りながら鉄男を指さします。そして最後のカットには、喫茶店の裏庭で強い風が吹く中、何度か大きく揺れるものの、すぐに元の姿に戻っていくしなやかな竹の様子が画面全体に映し出されました。

このコロナ禍にある時代は、どうやら簡単には終わりそうもありません。ある意味、コロナウイルスと人間との戦争であるのかもしれませんが。そのような大きな災禍の中で最も大切なのは、「自らの力でそういった災禍を跳ね返すのだ」という強い意志を持つことです。もちろん、他人に相談したり助け合ったりすることは決して悪いことではありません。しかしまず第一に、この困難に対して自分は決してくじけない、という気骨を持つことが大切なのです。

"Heaven helps those who help themselves."

幕末・明治期の洋学者、中村正直がイギリスの著述家S.スマイルズの著書を翻訳した「西国立志編」の中で、彼の言葉を次のように訳しました。

「天は自ら助くる者を助く」

名訳だと思いませんか。

ぜひ皆さんも、竹が強風に負けず自ら身を起こすように、コロナ禍がもたらす困難を自らの力で克服するのだという強い気概を持って戦ってください。

生徒諸君への、特に高校3年生諸君への私からの「エール」です。

※古関裕而(こせきゆうじ)

1909年(明治42年)生まれ。日本の作曲家。生涯で5千に及ぶ曲を作ったとされ、また、楽器を一切使わずに頭の中だけで作曲を行い、同時に3つの曲を作ったとも言われている。
【代表作】「栄冠は君に輝く(全国高等学校野球選手権大会の大会歌)(1948)、「オリンピック・マーチ(入場行進曲)」(1964)、他に早稲田大学第一応援歌「紺碧の空」、慶應義塾大学応援歌「我ぞ覇者」など多数。